

**倒産集計****信用交換所京都本社****10年5月繊維倒産****件数・負債額ともに落ち着くも、先行き不透明****▼全国▲ 発生件数=34件 負債額=64億5000万円**

2010年(平成22年)5月の全国繊維業者の倒産(負債額1000万円以上=整理・内整理含む)は34件。前月比で6件(15.0%)減少し、前年同月と同件数となった。

負債額は64億5000万円で、前月比で12億6000万円(16.3%)、前年同月比で108億3000万円(62.7%)減少した。

負債額が10億円を超えたのは(株)トライアイズ(大証ヘラクレス上場、東京都千代田区)の子会社である(株)松崎(東京都台東区、かばん・袋物製造、負債額12億5000万円)、東京ブラウス(株)(東京都中央区、婦人服製造、小売、同16億2800万円)の2社で、前月の1件に引き続き低水準で推移した。5億円を超える倒産も(株)ムツシュ榊(大阪市浪速区、婦人服製造、同7億円)の1社にとどまったことから、負債額は前月・前年比ともに減少した。特に前年は負債額が20億円を超える大型倒産が3件(株)クラヴィス、馬淵繊維(株)、西出(株)発生したこともあって、前年比では大幅な減少となった。

生産や個人消費の伸びが堅調だとの見解から政府は5月の月例経済報告で「景気は着実に持ち直している」との判断を示すなど、統計的には国内景況は緩やかな回復基調をたどっているとされる。しかし、繊維業界においては百貨店を中心に衣料品全般の不振傾向は変わらず、3月期決算を終えた斯業界有力企業の業績も一部を除いては厳しい結果を余儀なくされた。そうした中で倒産件数が今年に入って最低水準に抑えられたのは、コスト削減など各社の自助努力に加え、金融円滑化法に基づく金融機関のリスク対応などが奏功しているためと考えられる。

通年であれば倒産件数は落ち着く時期となるが、個人を対象とした借入金の総量規制が完全施行されるなど消費抑制にさらなる拍車がかかることも考えられ、こうした動きの中で売上不振から行き詰まる先が出てくることも予想される。

業種別では「小売商」が14件で最も多く、次いで「紳士・婦人・子供服・被服製造卸」7件、「ニット製品・洋品雑貨製造卸」6件、「織物卸」3件、「その他」2件、「呉服・和装製品製造卸」「寝具・インテリア製品製造卸」各1件。

原因別では「業績ギリ貧」が27件で全体の79.4%を占め、次いで「信用度薄弱」「資金力薄弱」各2件、「過剰投資」「貸し倒れ損失」「業況急変」各1件となった。

**▼京都▲ 発生件数=0件(前年同月2件) 負債額=0円**

(前年同月5億3000万円)

**▼滋賀▲ 発生件数=0件(前年同月2件) 負債額=0円**

(前年同月4億4000万円)